

# 団長の心のものさし

豪華ではない  
でも素敵な  
そんな演奏会場

## コンサート会場は大切な場所

20日、僕は内海君とともに熊野に向かった。熊野市駅前に新しいホールが出来たということで、その視察が目的。あいにくの雨で、ドライブ日和とはいかないが、約2時間半をかけて熊野市に到着。そこで出迎えてもらったのが歌手の相可佐代子さん。昨年結婚されて、現在は、熊野よりまだ遠い御浜町で暮らしてみえる。

事の発端は三重オペラ協会が、若手による企画運営で小規模なコンサートを行うということで「4シーズンコンサート」を企画、その皮切り会場に計画されているのが、今回訪ねた熊野市交流センターなのだ。客席数180席という、非常にコンパクトな会場で、暖かい雰囲気思いのほか良いのである。最新鋭の設備を完備

し、豪華な内装のホールも悪くはないが、そのために使用料が高くなり大勢の集客を余儀なくされるのでは「気軽にコンサート」を開くことはできない。手軽にコンサートを提供できなければ、音楽を生で体験する機会も少なくなるのである。その点、この会場はJR熊野市駅隣の利便性もよい。駅の改札を出て右手に歩けば、徒歩で1分とかならず会場に到着する。

### 設備だけの問題ではない

会場のよし悪しは何も機能面だけではない。スタッフの人柄も大きな影響を与える。この日対応していたいた片受さんという女性スタッフも、とても親切に会場を案内してくれた。演奏する立場である以上、会場側との折衝で心労を煩わせるのはごめんである。どんなに設備面でベストと思われる会場であっても、人的資産が整わなければ使う気にはならないものだ。このクラスの会場

熊野市駅に隣接し利便性も抜群の会場



であれば、遠方であってもそれほどリスクを抱えずに利用できそう。また、そうした利用が会場提供者の意識や利用者へのサービスに少なからず影響を与えるのだとも考えられる。こうしたキャッチボールができてこそ初めて、文化的な環境が整備



ステージは60度上がる  
客席はロールバック方式



されるのではないだろうか。自分たちさえ良ければいい...こうした考え方がすべての発展を阻止していることに意外と気がつかない。



ピアノを試奏する相可さん

会場の視察を終え、3人で昼ご飯を食べることに。前回、御浜町でのコーラスピクニックの後、帰り道に立ち寄ったうどん屋「小六」に行ったが、定休日。人気を二分するという「大石亭」に行くもこれもまた定休日。結局その隣の「小石亭」で食事を済ませた。なんでも親子でやっているとか。その後、喫茶店を探すもさすが熊野、ない！やっとのこと見つけた「ことぶき」という何とも笑える空気感の、一昔前の喫茶店に潜入。店の感じとは違い、お姉さんは綺麗だった(笑)。小一時間ほど音楽談義をして相可さんと別れ、帰路についた。

## うたおにの4月19日(月)の様子

練習内容  
Stand Alone  
Earth Song  
Amazing Grace

元々基本練習をしない合唱団。声だし代わりに簡単な小品を歌えばレパートリーも増えて一挙両得！ってなわけで、ドラマ「坂の上の雲」の主題歌「Stand Alone」を。そして6月

の合唱祭に向けて何を歌おうかと、試演してみた。「Earth Song」「Amazing Grace」とともにハーモニーが素晴らしい！しかも初回の練習で3曲ともそれなりに仕上げたところがある。Amazingは無理だろうなと思って楽譜を渡したんだけど...。Earth Songならもう一曲カップリングが欲しいね。いろんな作品に出会えて幸せだ。

# コーラスピクニック再始動!?

内海君が同行したのは、うたおにでも使えるかどうかを確認するためである。あのコーラスピクニックを復活させようと目論んでいるのである(笑)。今回の計画ではこの熊野市のほか、伊賀市、桑名市での3公演を検討している。そして各地区で活躍されている音楽家との共演も実現できればと画策している。

他の合唱団とは違って、お客さんの捉え方の上手いグループだと思う。しかし、コーラスピクニックを開いていた当時から一定のブランクが続いたせいか、少々ステージに出てからの所作に余裕がないように感じている。もちろんコーラスピクニックを知らないメンバーも増えていることもその要因だろう。

堅苦しいイメージが先行する合唱のコンサートを、気軽に楽しく聴いてもらいたいとの願いからスタートしたピクニック。結果として、演奏



客席との一体感も楽しみ

する側には圧倒的なパフォーマンス力が付き、聴く側には普段着感覚でコンサート会場に足を運べる、一挙両得な企画である。本拠地を離れてのアウェイでの開催になることが多いピクニックは、経費も最小限に抑

## コーラスピクニックの歩み

- コーラスピクニック 2001-2002 尾鷲公演  
2001年7月22日(日)
- コーラスピクニック 2001-2002 伊勢公演  
2001年7月29日(日)
- コーラスピクニック 2001-2002 美里公演  
2001年10月28日(日)
- コーラスピクニック 2001-2002 四日市公演  
2001年11月23日(祝)
- コーラスピクニック 2001-2002 津公演(昼)  
コーラスピクニック 2001-2002 津公演(夜)  
2002年2月3日(日)
- コーラスピクニック 2002 青山公演  
2002年11月2日(土)

- コーラスピクニック 2002-2003 in 海山  
2003年8月3日(日)
- コーラスピクニック 2002-2003 in 名張  
2003年11月15日(土)
- コーラスピクニック2002 - 2003 in KOBE  
合唱団「うたおに」神戸特別公演  
2003年12月27日(土)
- コーラスピクニック2002-2003おまけ in 志摩  
2004年2月15日(日)
- コーラスピクニック 2005 in 白山  
2005年7月30日(土)
- コーラスピクニック 2005 in 御浜  
2005年8月7日(日)
- コーラスピクニック 2006 in 富山  
2006年1月7日(土)

えながらコストパフォーマンスの高い内容が要求される。プロデュース面にもこの効果は絶大だ。うたおにのフレキシブルさはピクニックの経験によるところが大きいのである。タイトルネーミングも手伝い、うたおにのグループイメージにも暖かさを添えている。



コーラスピクニックはうたおにの代名詞

## 再始動に相応しい工夫は?

これまでのピクニックでは少々過度な演出に偏った感が強いが(笑)、リニューアル版ではシンプルなプランを思考中である。もちろん、一定の演出は一般のリスナーには有効だ。今回は“音”、“作品”、そのものの使い方に工夫をしてみたい。アカペラはもちろん、ギターや他の楽器の伴奏を使ったり。プログラム構成もオムニバスの内容は避けられないが、一定の統一感のあるステージ構成を

取り入れようかとも考えている。要は常に試行することだ。失敗すれば見直せばいい。やらなければ何も始まらない。

チーム力があるのが合唱団だ。多くのメンバーが集う合唱団がどうしてこのチーム力を駆使しないのか理解できない。でも、うたおにはここを大事にしたい。

詳細はこの紙面では書けないが、具体的にプロデュース作業に入っている。

ピクニックはワクワクする、楽しいものだ。さあ、出かけよう!



派手な演出も合唱コンサートらしくからぬ

